

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年2月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277102576
法人名	(有)ハピネス
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地 (電話番号)	浜松市東区中野町4258 (電 話) 053-422-4553

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年10月12日

## 【情報提供票より】(平成19年9月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計18人	
職員数	20 人	常勤6人	非常勤 14人 常勤換算 6.59人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り 2階部分の1階～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(2年間で償却)
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,500 円		

### (4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士ヶ丘内科 酒井歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県西部の天竜川西岸に開設され3年目を迎えるホームである。周囲が畑などに囲まれ、自然環境も豊かなホームは、木造2階建てで、民家風の造りであり、内外部に木材がふんだんに使われている。家具や調度品、浴室や玄関等は全て家庭で用いられているものであり、自宅からの延長した生活が出来るように考慮し、居心地の良さにこだわっている。利用者本位の充実した生活が継続できるように職員が丸手となって支援しているので、利用者も安心し、穏やかに過ごしている。地域や地域住民との交流も深まり、まさに地域に根付いたホームづとなってきた。利用者の重度化も進んでいるが、その人らしい、望まれる平常の生活を送るように工夫しているので、家族からの信頼も厚い。利用者にとって、心地良い自然体な生活が送られるよう支援しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘のあった事項は全ての職員で確認し、計画的に改善に取り組んできた。また、地域への働きかけやホーム機能の地域への還元等、運営推進会議の発足で取り組みが深まっている。ホーム便りも発行の方向で検討している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、正規職員全員が自己評価票に記入し、リーダーがまとめた。これまでの取り組みを振り返り、個々の課題を共有するとともに、今後の取り組みに活かす機会として有意義に取り組んだ。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的開催し、ホームの運営状況を報告し、利用者の生活充実に向けた意見を得るなど、有意義な取り組みとなっている。地域との関わりも自治会長の参加で広がりが図られ、地域住民との交流や災害時での協力体制の確立に向けて検討も深まりつつあり、今後の取り組みに期待できる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時には、気軽に何でも話せる雰囲気づくりに努め、家族からの相談や意見、要望等の把握に努めている。出された意見等は全ての職員で共有し、運営に反映させるように取り組んでいる。運営推進会議でも家族代表者の参加を得て、意見を得るようにする他、苦情等も寄せられた場合には、それを速やかに解決し、運営に反映させるようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設時から「地域の方との付き合いを近く」を心掛け、地域や地域住民との交流を図ってきた。地域自治会に加入し、積極的に地域行事に参加し、地域住民との顔なじみの関係もつくられている。地域に根付くホームづくりに取り組み、日常生活での関わりや災害時への協力も得られるようになりつつある。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から「地域との付き合いを近く」と心掛け、自治会に加入し地域の中で、「生きがいのある安心した暮らし」を理念に利用者への支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室内に掲げ、業務前や定期的な打合せ時に職員間で確認している。その理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根付くホームづくりに開設以降取り組んできた。自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。また、日常生活の中でも、近隣住民との交流が深まっている。	○	地域や地域住民との交流や触れ合いを大切に考えている。今後もその取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、これまでの取り組みを振り返る良い機会と捉え、全ての職員で取り組んだ。職員個々の課題を全体の課題とし、更なる取り組みに繋げようと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヶ月に一度開催している。自治会長、利用者家族、市及び包括支援センター職員、ホーム職員で、運営状況の報告や利用者の生活の向上に向けた話し合いを行っている。また、地域への理解と災害時への協力に向けた話し合いも行っている。	○	運営推進会議は有意義に開催している。運営基準で定められる開催頻度(2ヶ月に一度開催)について、検討をして欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行う会議に参加し、生活保護者の利用相談にも応じる等、必要に応じた連絡と連携を図っている。	○	保険者である市(職員)には、利用者の生活の質を向上させるための検討やホームの状況の理解を促すための定期的な話し合いの機会を設けるように働きかけを行って欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の生活の様子について伝える他、定期的な家族への連絡で、家族からも信頼を得ている。	○	家族からの不安の声は少ないが、定期的に一人ひとりの様子が伝えられるように今後も検討を行うことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、何でも気軽に話せるような雰囲気づくりに努め、些細な事柄も職員間で内容を共有し、検討するようにしている。また、苦情があった場合には速やかに解決する仕組みを設けている。利用者本位の考えにたって、寄せられた意見等は、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職による利用者への弊害を理解し、出来る限りそれを防ぐようにしている。新たに採用した職員がいきなり利用者サービス提供を行うのではなく、徐々に馴染みの関係づくりを行ってから関わるように配慮している。全ての職員が全ての利用者に関わるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務内の研修(OJT)充実に努め、採用時や1年未満の職員に対する研修を行い、モチベーションの向上やスキルアップに努めている。	○	経験や職種別に応じた計画的な内外研修の実施や受講を検討し、更なる質の向上に努めるように期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネ連絡会に参加し、法人内職員の交流を行っている。必要に応じて、他ホームや地域介護サービス事業所と連絡や連携を図っているが、定期的な交流や研修機会が設けられるまでには至っていない。	○	利用者へのサービス向上を目指すために、地域内同業者との定期的な話し合いや職員交流を行い、事例検討等の相互研修の場づくりに向けた検討が行われるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に対する理解を深め、職員と顔なじみの関係になって一人ひとりに応じたサービス提供に心掛けている。利用申込みの際には、利用者宅を訪問し、利用申込者及び家族の意向や希望を踏まえて、状況を確認しながらサービス提供を行うとともに、顔なじみの関係が深まるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬いながら、利用者からも教をを請うような関係を構築するようにしている。「おたがいさま」の関係を大切に考え、利用者に寄り添うように努め、ともに喜び合える関係となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者及び家族から、暮らし方の希望や意向の把握に努め、それが実現するように努めている。利用者の生活歴や利用後の暮らし方を記録し、職員間で共有するとともに、その時々々の言動や仕草等で、利用者が何を望んでいるかを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	正規職員での職員会議及び非常勤(パート)職員を含めた全体会議を定期的開催し、利用者一人ひとりの具体的な介護計画策定に向けて検討し、策定を行っている。策定した内容は、利用者及び家族にも説明を行い、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの計画は、状況により3ヶ月から6ヶ月で見直すように定め、モニタリングやアセスメントを踏まえた計画見直しを行うこととしている。利用者により状況の変化があった場合には、その都度随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を考慮し、利用者や家族の要望に対応できるように配慮している。時々希望にも応えるように留意し、外出やかかりつけ医への受診にも柔軟に対応するように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望によるかかりつけ医への受診を支援し、必要に応じて職員が同行している。ホーム協力医の定期的な往診もあり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族の意向を踏まえ、重度化や終末期に対する対応をホームとして行うように考えている。家族とは、定期的にその対応方法等について確認し、全ての職員間でその対処方法について確認している。	○	利用者や家族によりターミナルケアに対する思いや希望も異なり、対応方法も難しいと思うが、それを出来る限りありのまま受入れ、対応しようと考えている。今後の取り組みにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴、排泄時等のプライバシーに留意する場面では、誘導や言葉掛けに特に注意する等、利用者の尊厳や人格を損ねることが無いように留意している。また、個人情報の取扱いにも理解を深め、玄関に常備している面会簿は、個人毎にファイルし、他の利用者の面会状況が容易に見られないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や趣味、嗜好を把握し、その情報を職員間で共有するとともに、日々における利用者のペースにも最大限の配慮が行えるように努めている。利用者一人ひとりがその人らしく充実した日々が送れるような支援に努めるように職員間で確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を把握し、献立に活かすようにしている。食材の買出しや調理、配膳や片付け等を利用者とともに、無理の無いように行うとともに、食事時も楽しい一時となるように配慮している。職員も利用者とともに食事を摂りながらも、さりげない支援をを行う等、食事を楽しめるように工夫と改善を重ねている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯を指定せず、利用者の希望に応じて入浴できるような配慮に努めている。入浴管理表に記録し、一人ひとりの入浴記録をしている。入浴を好まない利用者への促しを課題としているが、入浴時間を楽しめるように検討も重ねている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、これまでの経験等から、張り合いがでるような楽しみごとや役割を見出し、それが行えるように支援を行っている。洗濯たたみ、清掃、畑いじり、食事づくり、新聞受け等、一人ひとりの趣味や力を活かした役割、楽しみごとへの支援を行い、充実した生活に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日の日課を決めず、一人ひとり自由に過ごせるようにしながらも、ホーム内に閉じこもることが無いように楽しみながら外出する機会を積極的に設け、支援している。無理強いはずらずに、関心や興味を持ちながら外出や散歩できるように工夫している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠する弊害を理解し、日中の施錠は一切行わない支援を行っている。利用者の自由な行動に、職員は見守りながらさりげなく支援するようにしている。近隣住民との関わりの中で、近隣住民も利用者に対して理解し、見守りような関係づくりが確立している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、通報や初期消火訓練や避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議の設置により、地域住民の協力も得られるような関係づくりもできつつある。	○	今後もあらゆる災害を想定し、近隣住民の協力が仰げるような関係づくりと防災避難訓練への参加協力等が具現化するように検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を個別に確認し、記録している。献立ごとのカロリー計算とはいかないが、法人栄養士に献立についてのアドバイスを得たりし、栄養のバランスに留意している。また、水分摂取についても留意して摂れるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム構造は、木造造りこだわり、全体的に木のぬくもりが漂っている。玄関や浴室等も家庭的であり、居間や廊下の随所にソファが置かれる等、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。共用空間は全体的に家庭的であり、居心地良い空間づくりが施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室床面には畳風の建材を用い、共用空間と同様に木材がふんだんに使われている。利用者がこれまでの生活で使い慣れた家具や調度品を持ち込み、好みに応じた装飾品で彩る等、一人ひとりにとっての居心地良い居室となるように支援が行われている。		